

# 大学入試改革—プレテスト踏まえた授業案

## 英語 共通点・相違点を整理して発表

布村 奈緒子  
東京都立両国高校  
附属中学校指導教諭



### プレテスト問題(一部掲載)

B You are going to have a debate about students working part-time. In order to prepare for the debate, your group is reading the article below.

**Students and Part-Time Jobs**  
According to a recent survey, about 70% of Japanese high school and university students have worked part-time. The survey also reports that students have part-time jobs because they need money for going out with their friends, buying clothes, and helping their families financially. Even with such common reasons, we should consider the following question: Is it good or bad for students to work part-time?

Some people believe that students learn several things from working part-time. They come to understand the importance and difficulty of working as well as the value of money. Moreover, they learn how to get along with people. Students can improve their communication skills and gain confidence.

Others think that there are negative points about students working part-time. First, it may harm their studies. Students who work too hard are so tired during class that they might receive poor grades in school. Second, it seems difficult for students to balance work and school. This could cause stress. Third, students may develop negative views of work itself by working too much. They may become less motivated to work hard after graduation.

What do you think? In my view, part-time work is not always bad for students. My point is that students shouldn't do too much part-time work. Research suggests that if students work part-time over 20 hours a week, they will probably have some of the negative experiences mentioned above.

問1 In the survey mentioned in the article, the students were asked. 10

- ① Have you ever worked part-time abroad?
- ② How much money per week do you make working part-time?
- ③ What kind of part-time jobs would be good for you?
- ④ Why do you work part-time?

問2 Your group wants to collect opinions **supporting** students working part-time. One such opinion in the article is that students 11.

- ① can become good communicators
- ② mostly have worked part-time
- ③ will have a better chance of getting a full-time job
- ④ will learn how to dress appropriately

問3 Your group wants to collect opinions **opposing** students working part-time. One such opinion in the article is that students 12.

- ① cannot be helpful in the workplace
- ② might perform poorly in class
- ③ should spend more time with their family
- ④ work part-time to buy what they want

問4 If students work over 20 hours a week, they may 13.

- ① begin to feel they need a well-paid job
- ② continue to work hard at part-time jobs
- ③ lose interest in working hard after leaving school
- ④ want to be independent of their families

### ■ 思考力を問う問題の増加

現行の学習指導要領にも新学習指導要領にも「思考力・判断力・表現力」を育むことが記されているが、今回の共通テストには、その「思考力」と「判断力」を必要とする出題が増えたことが一つの特徴として挙げられる。

では「思考力」とは、どのような力なのだろうか。「比較対照」「因果関係」「分類分け」「関連付け」といったものが「思考力」だと私は考える。中でも今回のプレテストには「共通点と相違点」を見つける問の多さが目立つように思える(第2問B問4、第4問問2・問5、第5問B問2)。実際の授業で「比較」というと「相違点」を見つけ出させてしまうことが多いが、「共通点」にも焦点を当てる必要がある。ペン図等を用いて、読んだ内容の「共通点」と「相違点」を整理させることを行っていきたい。

「分類分け」も、もう一つの特徴だ。第2問A問4では選択肢をFact(事実)とOpinion(意見)に分類分けさせた。この問題は、答えの数が限定されておらず、問題の種類として受験生が慣れていないことも相まって低い正答率となっている。

第5問Bのように読んだ内容のアウトラインを書き、Tチャートで比較してまとめたり、第6問のように物語を「アウトライン」「主人公」といったカテゴリーに整理したりする場面を想定した問題も出題されている。

また、従来のセンター試験は、本文中のある一文をパラフレーズして選択肢にしていることが多かったが、今回の共通テストは第2問B問4や第5問A問1のように複数段落の異なった要素をまとめて一つの選択肢にする例が見受けられた。複数の要素を一つにま

とめたり、文章の概要をつかみ、それぞれの要点を簡潔に1語でまとめたりする活動をする中で、整理する力を身に付けさせることが必要になるだろう。

授業の中でライティングとリーディングの統合も視野に入れる必要が出てくるだろう。第5問B問1、第6問問1(a)(b)では、読んだ内容のアウトラインを選ぶという出題が出ている。アウトラインを書いて、エッセーライティングができるようになれば、おのずとつながりを意識して書いたり、読んだりすることができるようになる。パラグラフやパラグラフ間の構造を意識し、つながりを意識して書いたり読んだりできるようになれば、第5問A問3のような一貫性を意識して読んでいるかを確認する問にも対応できるようになるだろう。

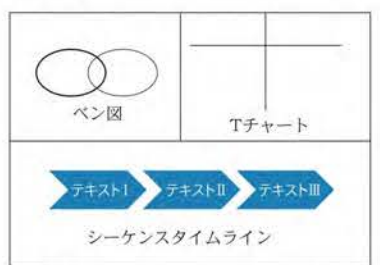
「判断力」は推論発問や書き手の意図を問う問題で測られていた。第6問問4では読んだ物語がどんな人に受け

るかを判断させ、第5問A問2では、書き手が折り紙の効果についてお年寄りや若者に対する効果の両者を書いたその意図を選ばせることで判断力を見た。これらの問題に対応するには、なぜそう読み取れるのか、理由や根拠を言わせることで「判断」させる、日々の訓練が大切になる。

以上のように今回の共通テストには「思考力」や「判断力」を用いた問題が増えたことから、授業の中にもそのような発問や活動を取り入れる必要が一層増したのではないかと私は考える。

### ■ 他教科とも連携、図を活用して

思考力を育成するためには、常に「Why」を考える習慣が必要になるため、ウォームアップとしてWhy? Gameを使う。「I went to Kamakura last weekend.」「Why?」「It's because it was sunny.」「Why did you choose Kamakura?」と「Why?」だけで永遠に会話を続けることができ、また思考を働かせる訓練にもなる。



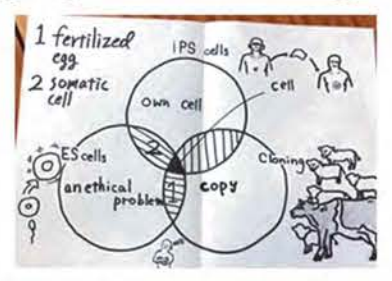
グラフィックオーガナイザーの種類

思考をまとめるのに有効なのはグラフィックオーガナイザーの利用だ。共通点と相違点を考えさせるのであればベン図を、比較するのならTチャート、物語の分析ならシーケンスタイムライン等用途に応じて変えていきたい。あらかじめ書いてある図に付箋紙を貼って思考を整理していく方法も有効だろう。

「英語」の授業なので、思考を整理したものを英語で発信しなければいけない。出来上がった図を見ながら、ラウン

ドロビン(時計回りに一人ずつ発言をしていく方法)で一言ずつ言っていく方法は、即興で話す練習になる。生徒のレベルに応じて、スライドに“A and B are similar, because……”等センテンスフレームを示しておく、必要になったときの助けになるだろう。

グループで発表をさせるときは、「10歳の子どもが理解できるように説明をする」という条件を付けた。高校の教科書は扱っているトピックが大変難しく、何も指示をしないと専門用語のオンパレードで、発表している本人も実はあまりよく分からずに発表しているということも多い。そのような難度の高いトピックを扱うときの発表には「10歳の子どもが理解できるように」という条件を付けると、簡単な言葉で説明しようとする。例えばfertilized egg「受精卵」のような語に出くわしたときは発表で“Male egg and female egg get together. This is a fertilized egg.”



### 思考力を育成する授業展開案

1. Warm-up	Why? Game	ペア	トピックは自由。どんなことに対しても“Why?”と聞き返し続ける。ペアを替えて2回
2. Pre-reading	Compare and Contrast	グループ	グラフィックオーガナイザー(ベン図)を用いてiPS cellsとES cellsとcloningの違いをまとめる
	Round Robin	グループ	書き終えたベン図を見ながら、ひとりずつ時計回りで共通点や相違点を英語で述べていく
	Group Presentation	グループ	書いたベン図を投影させ、それを指し示しながらグループ発表をする。
3. While reading	Read the text about iPS cells	Give Comments	個人 聴衆はグループ発表に対し、コメント、もしくは質問をする。コメントをするときは必ず理由も述べる。
			個人 教科書の本文を読む。

という説明を行う。教師が「英英辞典を使って調べなさい」と指示をしなくても、おのずと英英辞典を引き、その英語をさらに自分に分かる英語でパラフレーズする、という行動を生徒は行うのである。

発表後は、聴衆のグループの代表者一人ずつから質問もしくはコメントをもらう。コメントの場合は、必ず理由を言う、という条件を付けておくと、聴衆も生徒の発表をしっかりと聞き、客観的に発表の良い点とはどんなところなのかを考えることになる。

後で聞いた話だが、この発表を行うに当たって生徒たちは生物の教員に「簡単に教えて」とお願いをしたそう

だ。その教員は全クラスでiPS細胞について生物の授業でレクチャーしてくれて、生徒は必死に聞いていたという。授業の枠組みを変えなくとも、他教科の先生と話をしておけば、教科間連携を取ることは可能なのだと思う。特に英語は扱うトピックが多岐にわたるので、他教科の先生との情報共有は大切だ。

生物資料集と和英辞典と英英辞典を必死に見ながらグループでベン図を作った生徒たちは、教科書本文を読む頃には、教科書に出てくる重要語は既に調べてインプットされていたため、ほとんど辞書を引かずにずっと読めたことは言うまでもない。

2018 第5回

# 夏の教育セミナー

新学習指導要領と大学入試改革

参加無料

5年目となる 本年は より実践型へ!

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

**セミナー共通プログラム**  
(予定)  
13:00~18:30

プログラムの詳細は、変更の可能性があります。

第1部	13:00	開会
	13:20	特別講演① (60分) 新学習指導要領や大学入試改革の要諦について、教育改革を推進する文科省等の制度設計の担当者・有識者より講演いただきます。
	14:30	特別講演② (60分) 大学入試や授業改革の具体的な変化についての講演。「大学入学共通テスト」のモデル問題・試行調査の解説等を予定しています。
	15:30	特別講演③ (15分) 文部科学省「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムより、高校生への留学支援についてご紹介します。
第2部	16:00	分科会 (90分)
		新テストで求められる学力へとつながる、本質的・先進的な取り組みをされている高校の先生による模擬授業・実践例報告の分科会と、各地域の主要大学によるアドミッション・ポリシーの分科会を実施します。
第3部	17:40	交歓会 (50分)
		ご参加の先生同士の情報交換・交流の機会として、積極的にご活用ください。軽食・お飲物をご用意しています。

分科会は教科別の授業実践と大学のアドミッション・ポリシーから選べます!

各教科の授業実践 について、実際に高校で指導している先生から、実際の教材や授業の様子をご紹介します。英語、数学、国語の教科別に、授業案やモデル問題解説などを行います。

各地域の主要大学 から、幹部や担当者が登壇。「どのような学生を求めているか」や、改革を実現するための大学の取り組みなどをご紹介します。